

第5回 JLPP 翻訳コンクール 独語部門講評

翻訳家、ドイツ文学者、早稲田大学文学学術院教授
松永美穂

今回初めて JLPP 翻訳コンクール（ドイツ語部門）の審査委員をさせていただきましたが、予想以上の数の応募があり、その中から最終選考に残った 14 人の方々の翻訳作品については、どれもレベルが高く、大変感心いたしました。

そもそも、今回の課題作品はかなり難しかったのではないかと思います。野坂昭如「東京小説 家庭篇」の、「浮世のしがらみお上の取決め」「『円』は栄える家並みは瘦せる」などの講談調の語り口や、一方的に身の上話をする女性の「主人は古いんです、今のところ」などの言い回し。伊藤比呂美「みんなのしっと」の落語調の江戸ことばと、手紙文の混在。谷川俊太郎「思いつめる 教育について 前提として」の、例えば「思想という言葉がふたつの〈おもう〉の積み重ねでできているのはおもしろい」という、漢字の知識を前提にした話。そして、田辺聖子「ヒロインの名前」には、文字通りたくさん名前が列挙されます。どのテキストにも難しいポイントがあり、ドイツ語でどのように処理されるのか、興味津々で審査に臨みました。

最優秀賞に選ばれた Robin Weichert さんは、事前に提出した候補者リストで、4 人の審査委員全員が賞の候補として挙げており、文句なしの受賞だったと思います。間違いが少ない手堅い訳で、伊藤比呂美の翻訳では、大家さんと店子のユーモラスな掛け合いが、原文の勢いもそのままうまく再現されていました。また、谷川俊太郎の翻訳では、著者が使っている日本語のキーワードをイタリックで示しつつ、その単語の翻訳を示す、という丁寧な方法がとられていました。

優秀賞に選ばれた Nancy Yanagita さんの翻訳は、平易で読みやすいなかにも、よく原文の意味を伝えていたと思います。伊藤比呂美の「だけど大家さん、あなた、人も殺さぬ顔をして裏じゃそうとう……」の訳も面白かったですし、田辺聖子の翻訳で、ヒロインたちの名前のイメージをさりげなく翻訳で伝えているところや、作品タイトルも原語の発音とともに意味を示しているところなど、読者への配慮が感じられました。

もう一人の優秀賞、Janett Claus さんは、野坂昭如の方はわりと淡泊な翻訳という印象でしたが、田辺聖子の翻訳では注をつけ、ヒロインの名前をローマ字に直すだけでなく漢字も示しながらそれぞれの文字の意味を伝える、という

方法をとっていました。日本語の名前のニュアンスをどうやってわかってもらうかという点で、工夫が見られたと思います。

個人的には、Inga Neuhaus さんの丁寧で文学的なセンスが感じられる翻訳に、好感を持ちました。また、Anna Sanner さんが伊藤比呂美をベルリン方言で訳したことは、大胆かつ成功した試みだったと思います。この翻訳は非常に面白かったのですが、原文にない文章が追加されているという理由で、受賞を逸しました。

全員の作品に言及できないのは残念ですが、優れた翻訳を読ませていただき、楽しい審査でした。応募された方々の今後にあげたいエールを送ります。